

第35回卒業証書授与式・式辞（抜粋）

皆さんが中学校に入学してからの3年間、どのような年だったか覚えていますか？

一年生の夏は、気象庁が観測を初めてから百十三年間で最も暑い夏と報告され地球温暖化が身近な問題として実感された年でした。また、小惑星探査機の「はやぶサ」が、七年ぶりに地球へ帰還し広大な宇宙へと夢が広がり科学に興味を覚えた人もいないのでしょうか。

二年生を迎える直前には、日本中が恐怖と絶望に包まれた、東日本大震災が起こり映画でも見ているような津波の脅威、約1万6千人もの命が奪われました。このことから昨年は、機会あるごとに「命の大切さ」についてお話をしました。明るい話題といえば「なでしこジャパン」が世界一になったこと。

三年生になると、金環日食、東京スカイツリー完成、iPS細胞によるノーベル賞受賞、ロンドンオリンピックの日本選手の活躍など、華やかな印象的な出来事が多かったように思います。残念なのは尼崎市の名前を全国へ広めたのは、暗い影が差す事件でした。

教育の世界でもこの3年間に公立高校の授業料無償化、県立高等学校の通学区見直し決定、大津市のいじめによる中学生の自殺、大阪市の体罰に起因する高校生の自殺など、めまぐるしく大きなうねりが続いた、大変な3年間でしたが君たちは焦らず慌てず落ち着いて過ごしてきたと思います。

さて、私が卒業生の君たちと出会ってから早2年、様々な姿を見てきました。

中学校生活での目標や目的を見失い、だらだらと無駄な時間を過ごしていた君。

毎朝、素敵な笑顔で微笑んで「おはようございます」と元気に挨拶をしてくれた君。

朝からイライラして周囲の物や友人・先生に当たり散らしていた君。

三年間、部活を休まず、朝練からずっと頑張った君。

その結果、最後の夏の総体で全国大会へ出場した君。

家に帰らないで公園で夜通し気の合う仲間と遊んで学校へ登校できなかった君。

選手としては、出場できなかったけれど、補助役員として、全国大会を支える役目を立派に果たすことができた君。

大人のまねごとなのか格好付けてタバコを吸ったり、髪の毛を染めたり、ピアスをしたりしていつも叱られていた君。

合唱コンクールで精一杯頑張ったけれど優勝できずに涙を流していた君。

家では、ゲームやパソコンに夢中になって昼夜逆転の生活を送っていた君。

人生初めての大きな選択、嬉しさに自然と顔がゆるんだ高校の合格通知を手にした君。

日本代表として日の丸を胸に、海外デビューを果たした君。

三年間休まず持たせてくれた、手作り愛情弁当が自慢で、お母さんに感謝していた君。

みんなより一足先に大人の世界へ社会人として旅立つ君。

思うように力を出し切れなかった、悔しい思いを噛みしめて、明日の公立高校入試に再度挑戦する君。



様々な体験が、君たち一人一人を成長させてくれた三年間だったと思います。

《 中 略 》

つらいこと、しんどいこと、泣きたいこと、それを我慢し、辛抱して乗り越えた者だけが、達成感を得ることが出来ます。

できない理由を探せばいくらでも見つかります。その理由を言って目の前の問題から逃げてしまえば、楽かもしれませんが、それで良いのでしょうか。そんな人生は本当に楽しいのでしょうか。君たちにはまだ十分な力がないかもしれません。もっと時間をかけて、準備して鍛えなければならないかもしれません。でも、それを言っているうちに、目の前の問題は何も手を打たないまま放置されてしまいます。これでは、いつまで経っても、本当の力はつきません。自分が成長し、力を付けるには、目の前の問題、目の前の敵から逃げるのではなく、自分のできることを精一杯やるのが重要なのです。

今、自分に出来ることに全力で打ち込み、戦い、工夫し、考え抜いていくうちに、自分の道が必ず開けるのです。いつも君たちにいっていました。

『夢は見る物ではなく実現する物です』

「這えば立て、立てば歩めの親心、我が身につもる、老いを忘れて」という言葉があります。お父さんとお母さんが奇跡的に出会い。何億分の1の確率で生まれてきたあなた。子どもを産むということは大変なことです、あなたのお母さんは、あなたを命がけで産んでくれました。そして、家族はその小さな命の成長を、自分の命を捨てても惜しくない、そのくらいの覚悟で見守り支えて来たことでしょう。

雨の日も、風の日も、暑い日も、寒い日も、あなたの笑顔を見ては喜び、ふさぎ込んだら心を痛め、ひたすらあなたの成長を願い今日のこの日を心待ちにしていたことでしょう。あなたもやがてそんな家族を持って守って行かなければなりません。約束して下さい、命を大切に、自分自身を大切にして下さい。

今日が節目です、この式が終わりお父さんやお母さんに会ったときに心を込めて『ありがとう』と感謝の気持ちをしっかりと伝えて下さい。そして『もう少しの間よろしくお願ひします』も忘れずに。

最後になりましたが、改めまして、保護者の皆様、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げますとともに、この3年間の本校の教育活動に対するご理解とご協力に感謝の言葉を申し上げます。ありがとうございました。

保護者の皆様、お子様の後ろ姿はいかがでしょう。三年前の入学式の時には、まだまだランドセルが似合っていた背中が、中学校三年間で大きくたくましくなったことと思います。しかし、今しばらくは目を離さず暖かく見守ってあげてください。そして、迷いがあり立ち止まった時には、そっと暖かくその背中を押してあげてください。

卒業生の皆さん、人間は一人では生きていけません、家族、友だち、学校の先生、地域の様々な人との関わりがあり、多くの人たちに支えられていることを改めて認識し、その人たちへの「感謝の心」を言葉と態度で表すことを身につけておいてください。

それでは、第三十五期生に幸多き事を祈り。これもちまして、式辞とします。

平成25年3月13日

尼崎市立武庫東中学校長 小谷豪郎

